



「子どもの日」を前に総務省は4日、外国人を含む15歳未満の子どもの数(4月1日時点)が1401万人で、43年続けて減少した

子ども1401万人 43年連続で減少

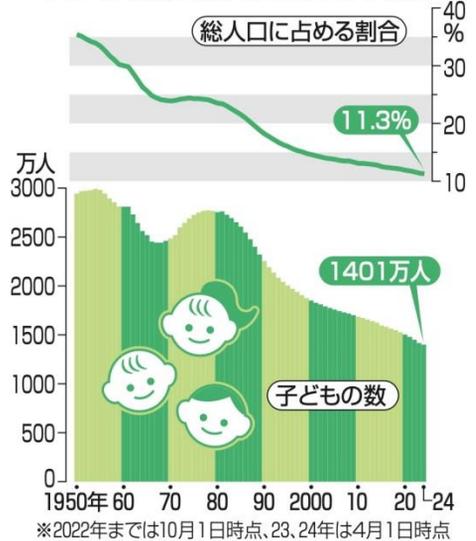
最低更新、少子化が進行

4月時点の都道府県別データは算出していないが、昨年10月1日時点の集計で見ると、全都道府県で前年より子どもが減少した。1

と発表した。前年より33万人少なく、総人口に占める割合は0.2%低下して11.3%。人数、割合ともに比較可能な1950年以降最低を更新した。出生数の落ち込みによる少子化の進行がさらに鮮明になった。人口推計を基に算出した。男女別では、男子が718万人、女子が683万人。3歳ごとの年齢層別では年齢が下がるほど減り、12〜14歳が317万人にに対し、0〜2歳は235万人だった。

大分は12万7千人で、子どもの割合は11.6%だった。国連のデータによると、推計時点は異なるものの、人口が4千万人以上の37カ国のうち、日本の子どもの割合は韓国(11.2%)に次いで2番目に低かった。

子どもの数と総人口に占める割合



人口推計
総務省統計局が5年に1度の国勢調査を基に、月例で公表されている出生数や死亡数、出入国者数の増減などの各データから人口を計算して発表する。国勢調査がない期間の人口推移の把握が目的。毎月1日時点は全国の人口、毎年10月1日時点は都道府県別を含む詳細なデータをまとめる。3カ月を超えて日本に滞在する外国人も含まれる。

00万人を超えたのは東京、神奈川の2都県のみ。大阪は都道府県別の人口推計が始まった70年以降、初めて100万人を下回った。子どもの割合が最も高いのは沖縄の16.1%。滋賀13.0%、佐賀12.9%と続いた。最も低いのは秋田の9.1%。次いで青森10.0%、北海道10.1%の順だった。

〔問①〕 15歳未満の子どもの数は何万人ですか。また総人口に占める割合は何%ですか。

1401万人 11.3%

〔問②〕 子どもの数が100万人を超えた都道府県はどこですか。また、子どもの割合が最も高い県と低い県を答えましょう。

100万人を超えた都道府県(**東京都** ・ **神奈川県**)
子どもの割合が高い県(**沖縄県**) 低い県(**秋田県**)

〔問③〕 少子化が進むと、将来どのようなことが困りますか。話し合ってみよう。

グループ討論